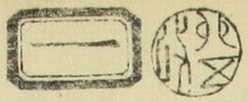
十二篇下
十二篇上



讀のまれ本もまれに讀本とハ繪草紙に對へて称る名目なるべし兒女子の目を悦ばせるに古来繪を專とし詞を加へ繪の意説くをもてあるどにと云詞ハ客画ハ主にて作者を淨瑠璃語に此画工をば三線ひれに准せるハ非なり讀本ハ作者を一とし續草紙ハ画を二とせず拙辞ハあまりにひに添て繪まつぞの瑕ともなるめど讀本よりも長くある續き物の一徳と作者から先尋ねらるゝハ吾黨の幸なるべしと獨よろこび草する窓外に飛交蝶の都雅にして俗氣なれこの虫チウとも二ヤアとも鳴ば却て難をつけられん黙るに如じと止る筆を復走るまでも世計ひなぐハせんと背に汗して

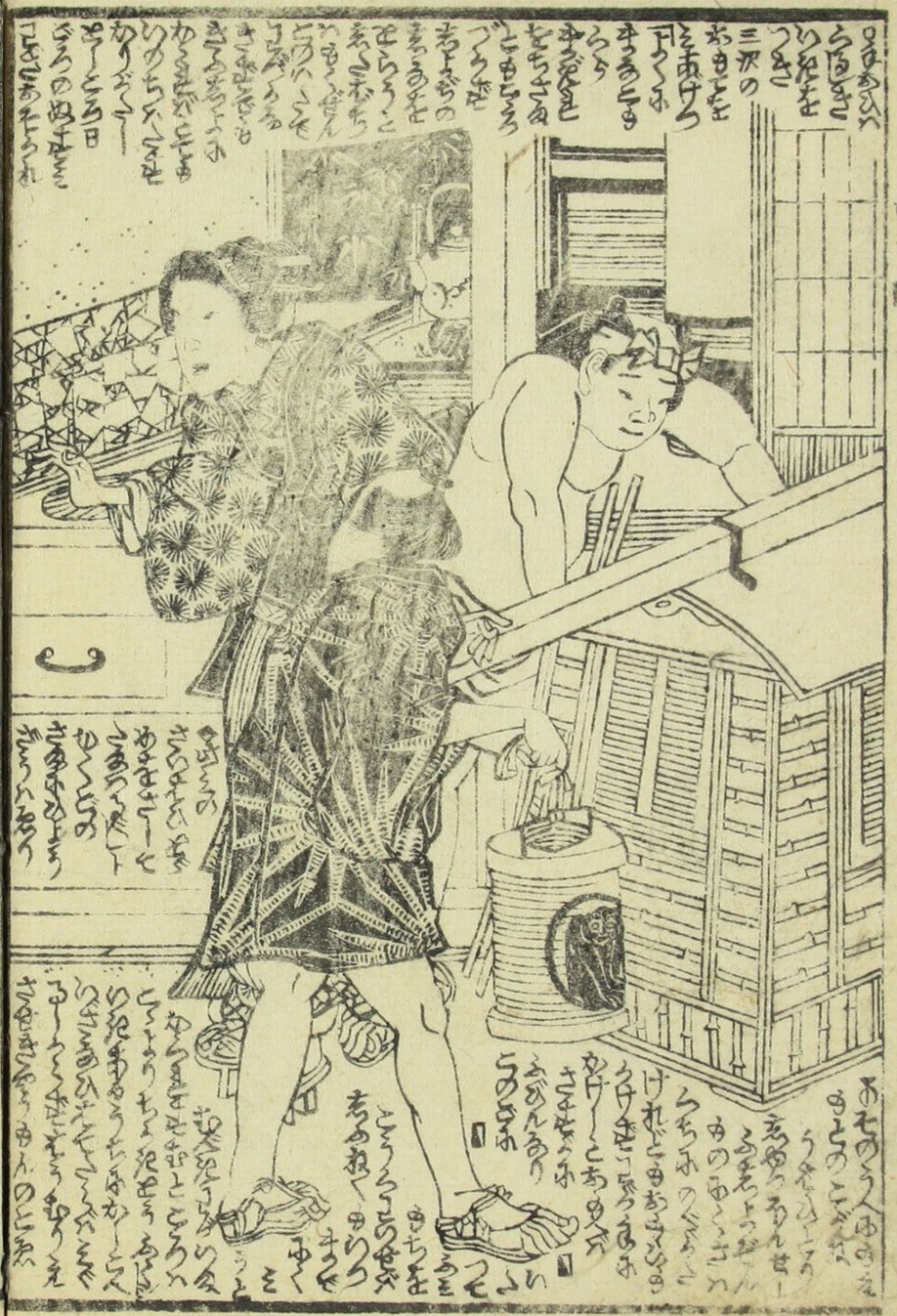
慶應三年麗月

柳之雅彦 自叙

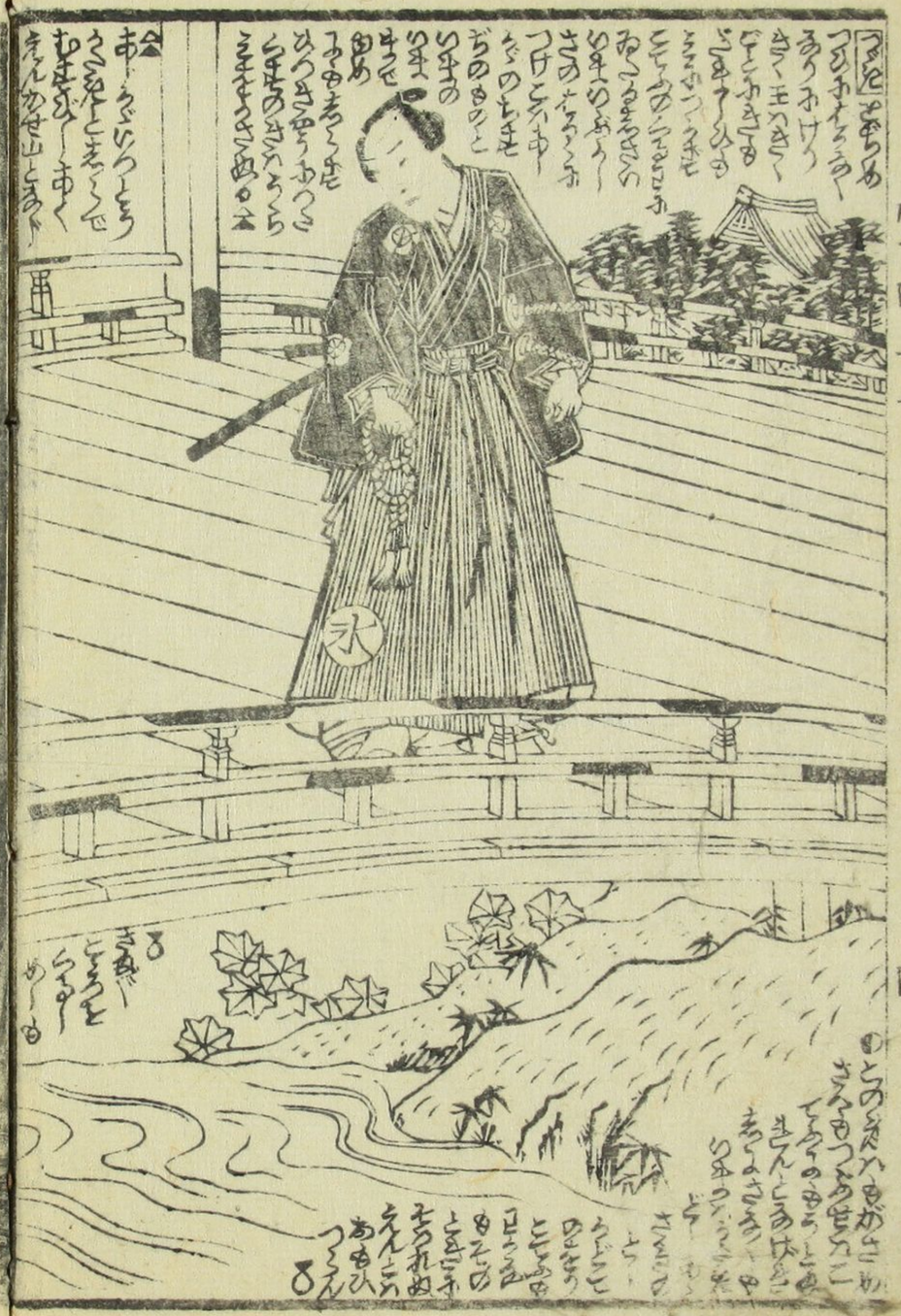
○伏見里の雪の玉

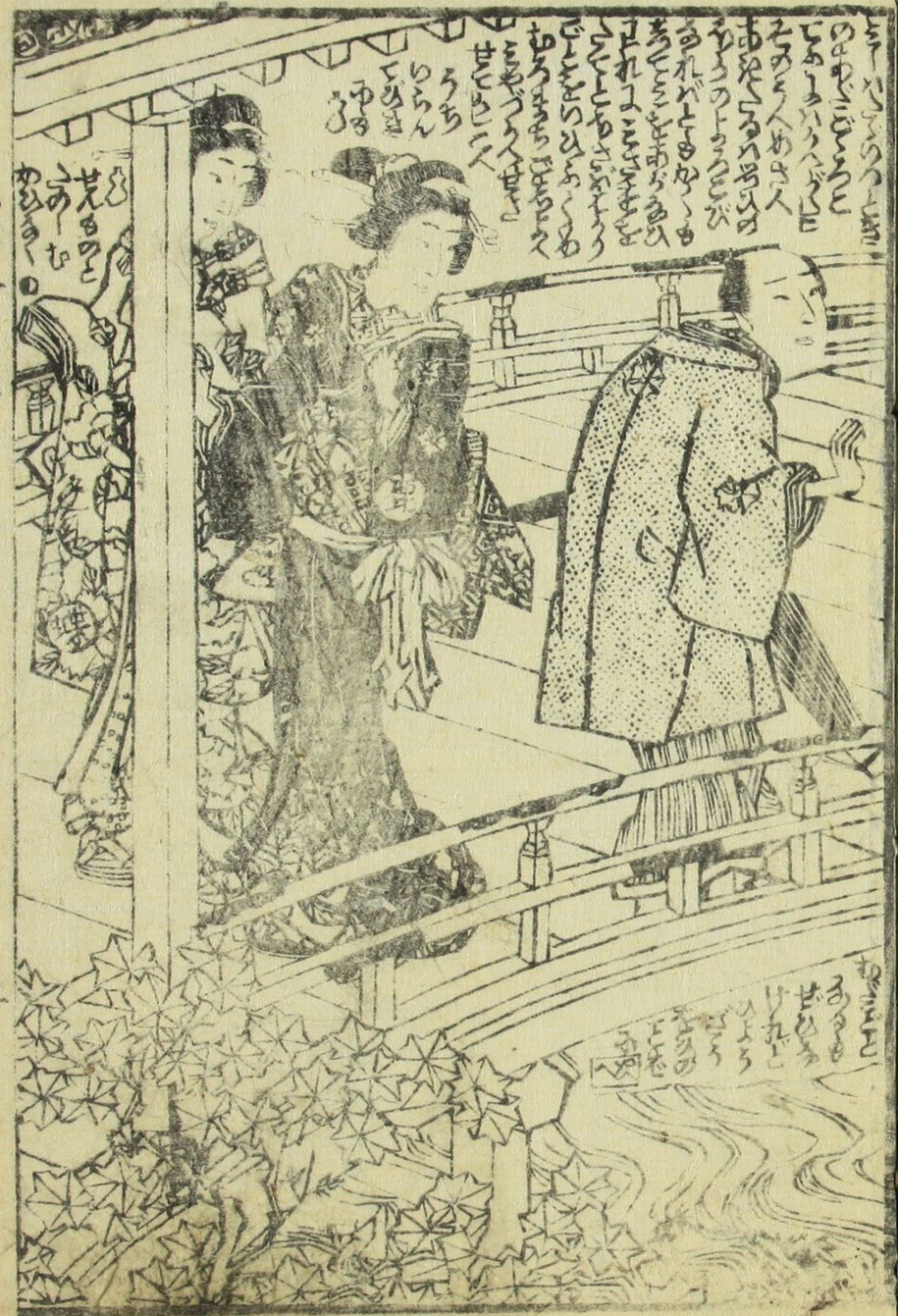
○露ゆ宿かる月の刀白

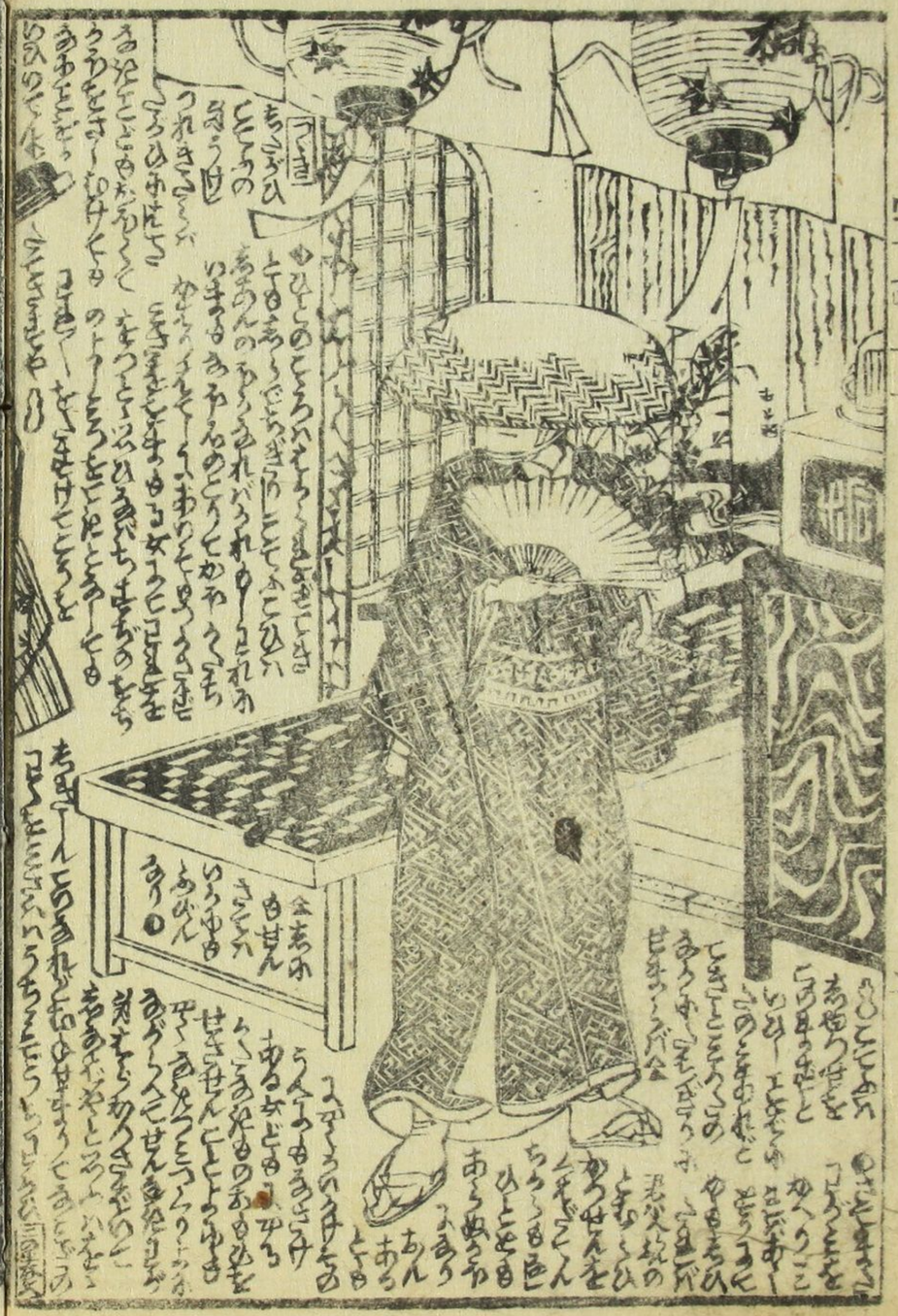
○室町の花の君

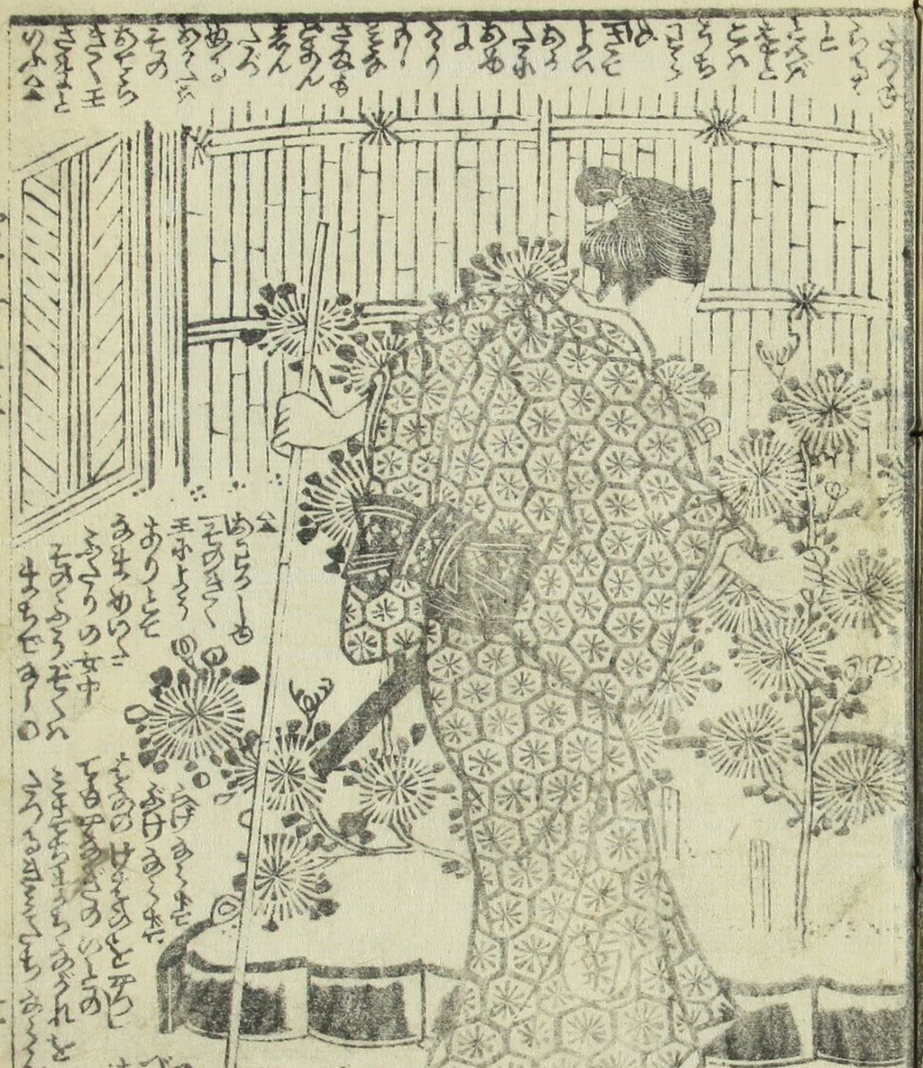


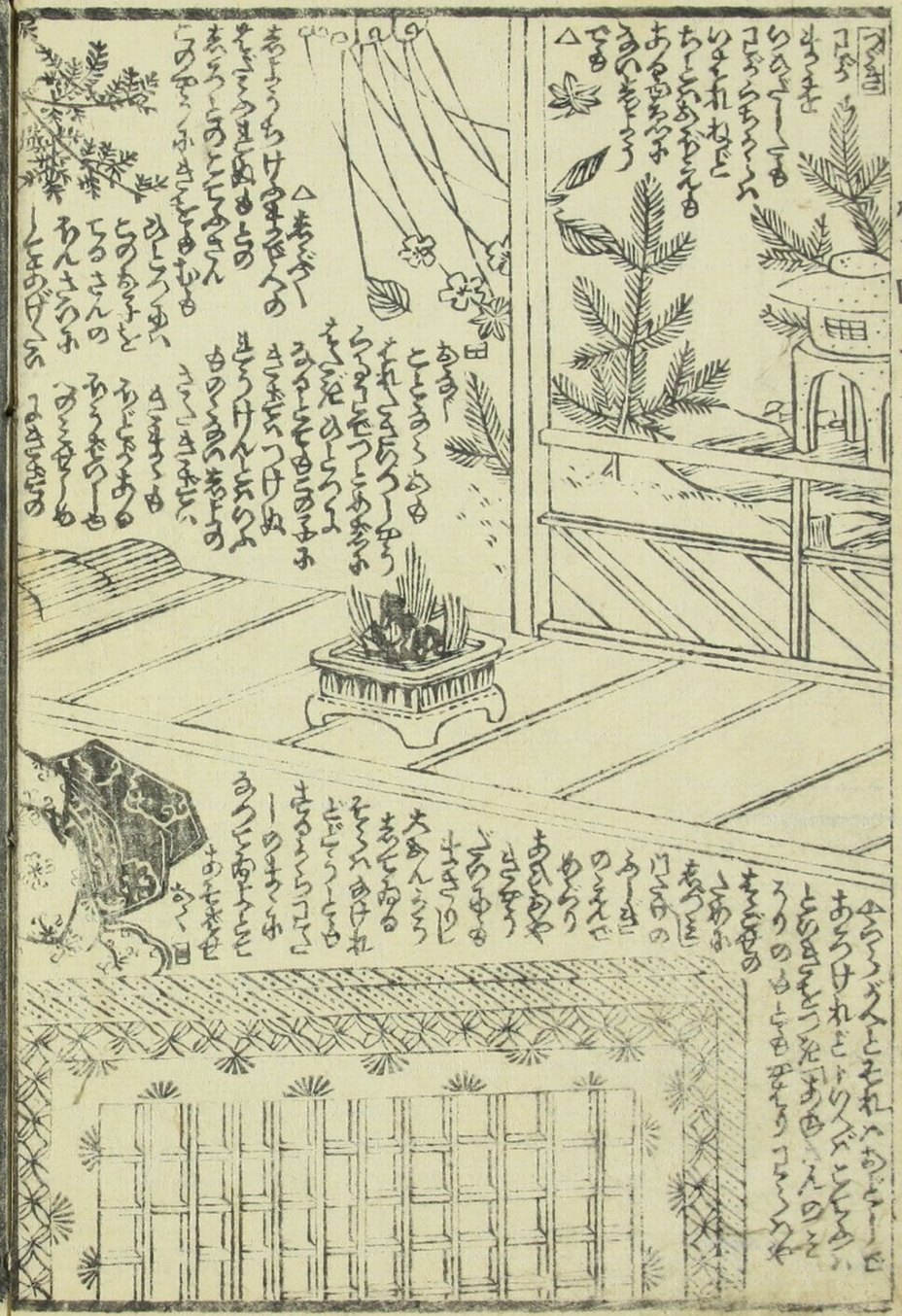
かどや











種彦作國貞画

本家
實母散
私方實母さんの義ハ中せし一事てんせ町一丁目西ヶハ
ゑて年来賣弘ゞ来り業店ませ候間所
向まゞ引うつり手ゆるゝ所ゆ所ゆ所向ま所上ハ
こんぜんさんごふしんちかゝち一切の妙薬
中橋南傳馬町一丁目東ヶハ
千葉堂孝輔製

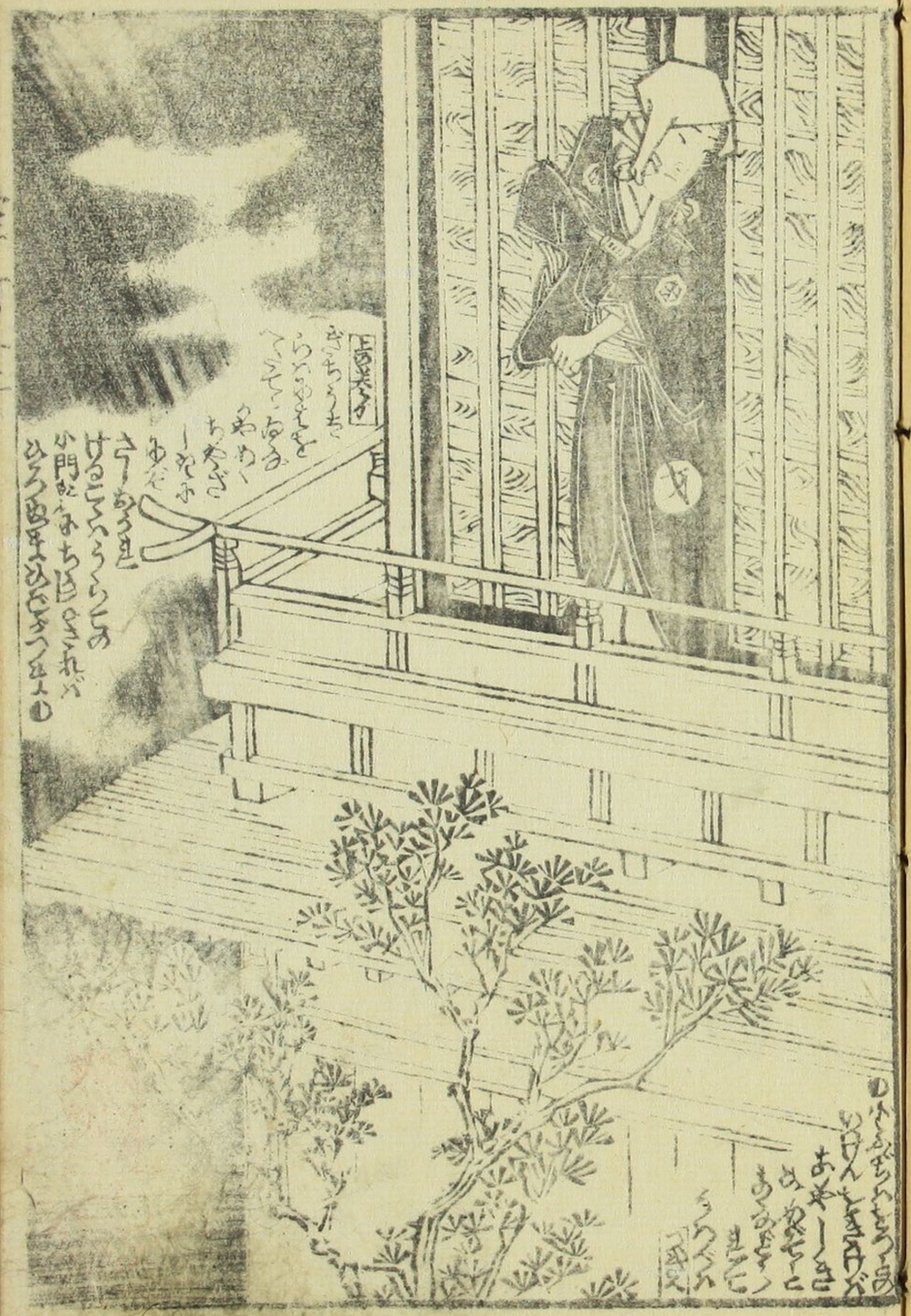
鼠祠通夜譚

四編より
八編まで
出板社は
柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

厚化粧萬年嶋田

初篇より
近々出板
辰春粉さん
爲永春水作
梅蝶樓國貞画

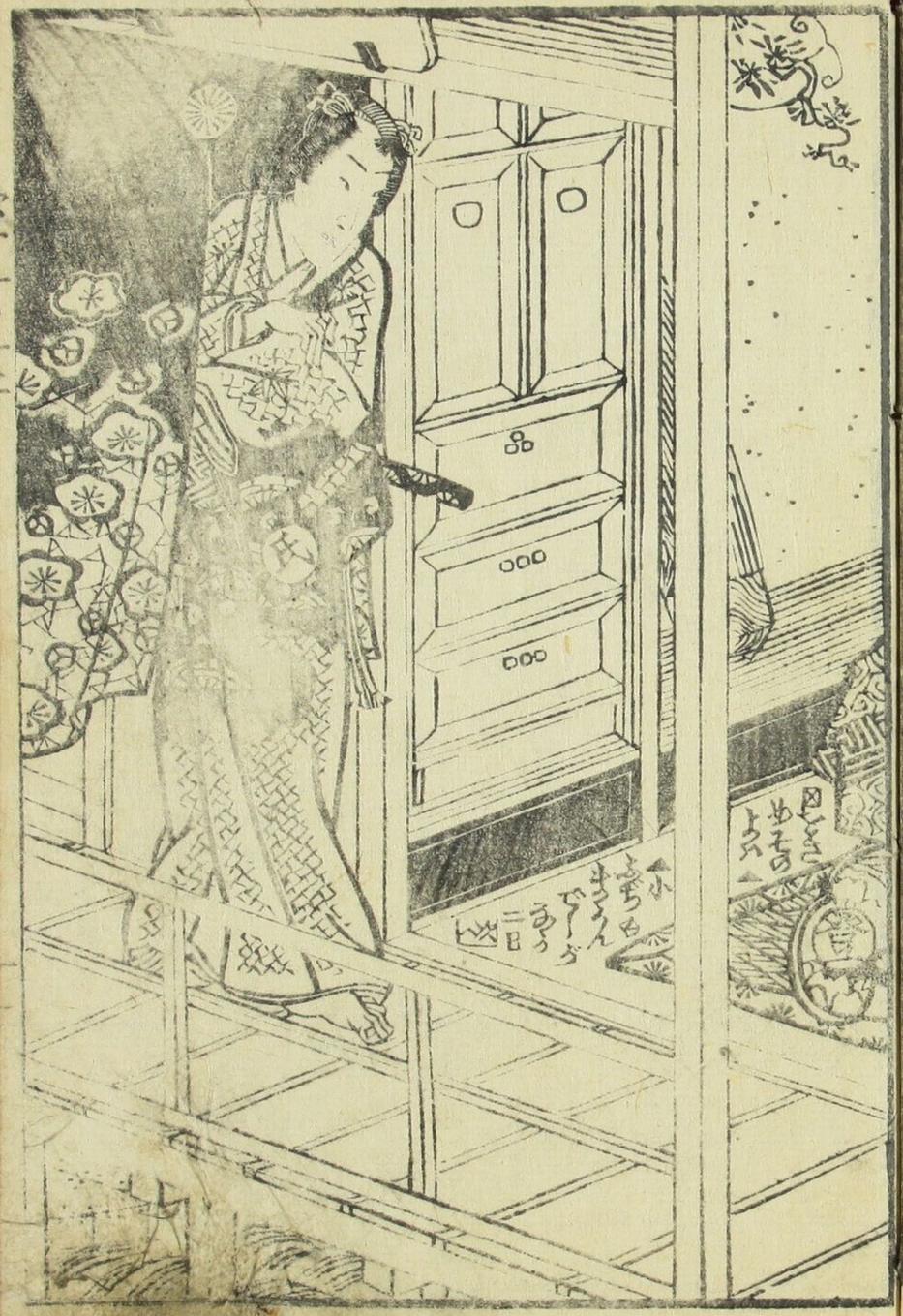
這ハ世に普く沙汰せらるゝ姐己阿百が傳にして是に和尚奥の惡霊
黄緑芦田の家に仇做んとして爰に忠臣孝女にして渠が毒手に苦を
あどにまとゝ衰ましてて花ゆゑ宜く理のはらし草双紙にかん

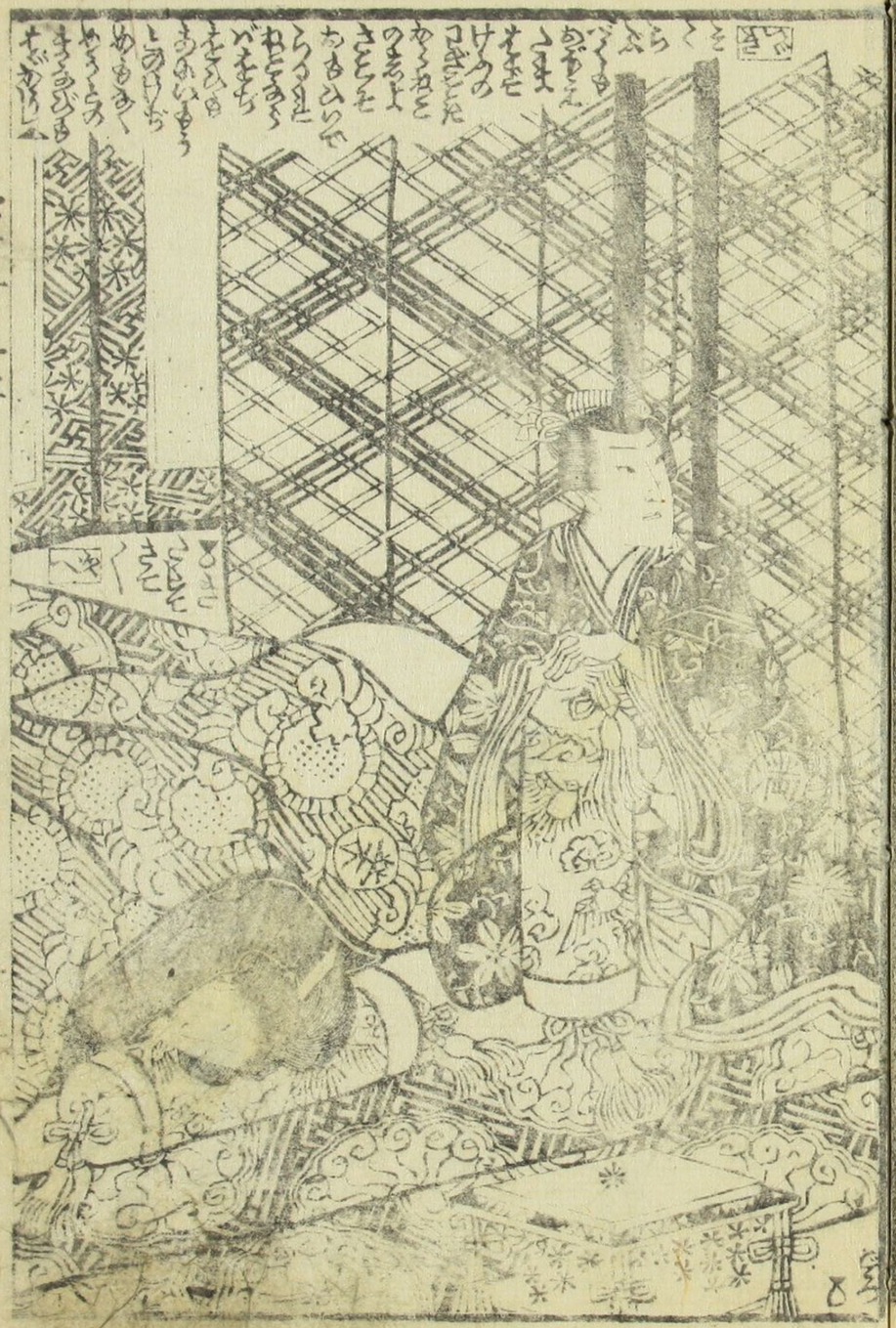


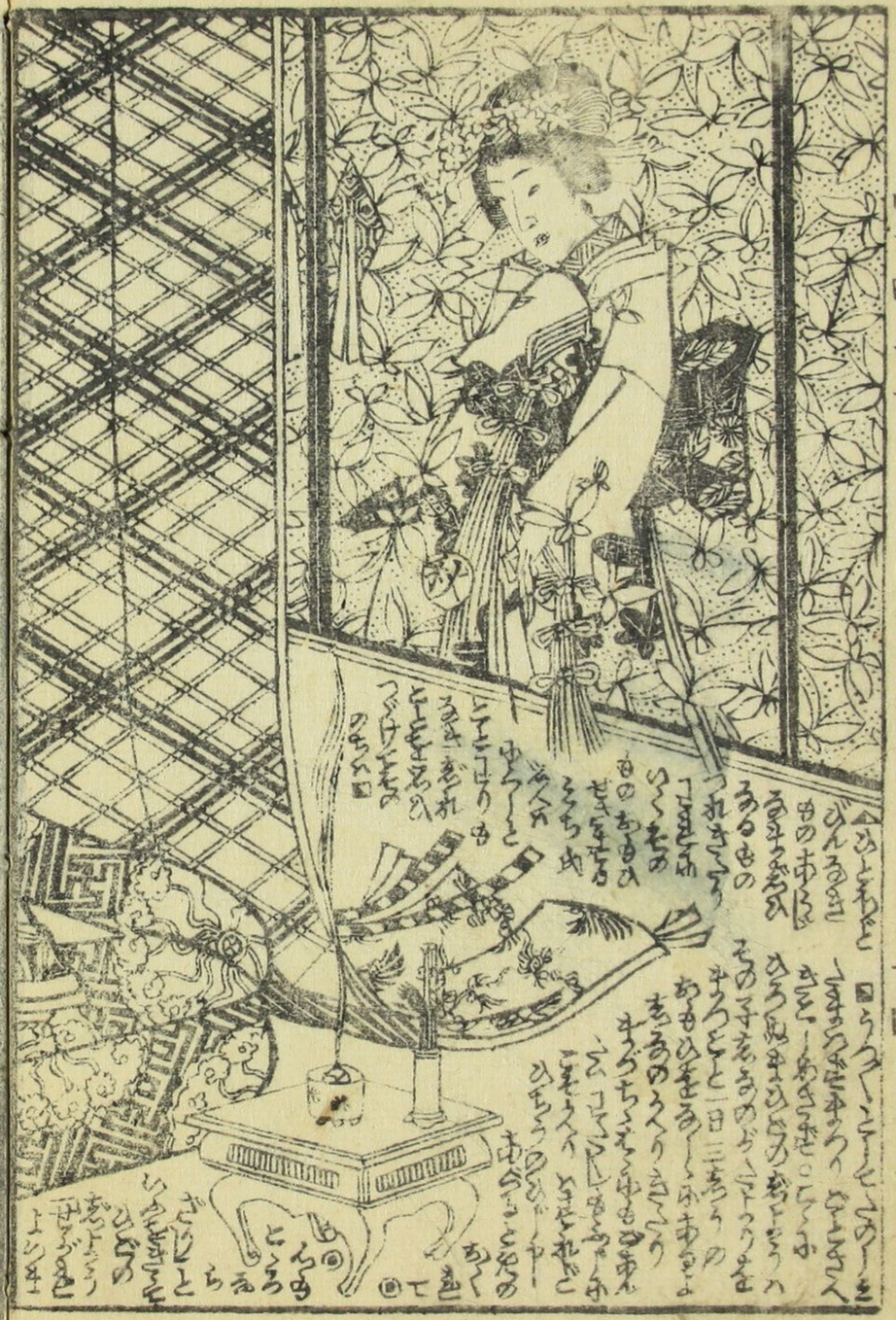
胡蝶巻十二下

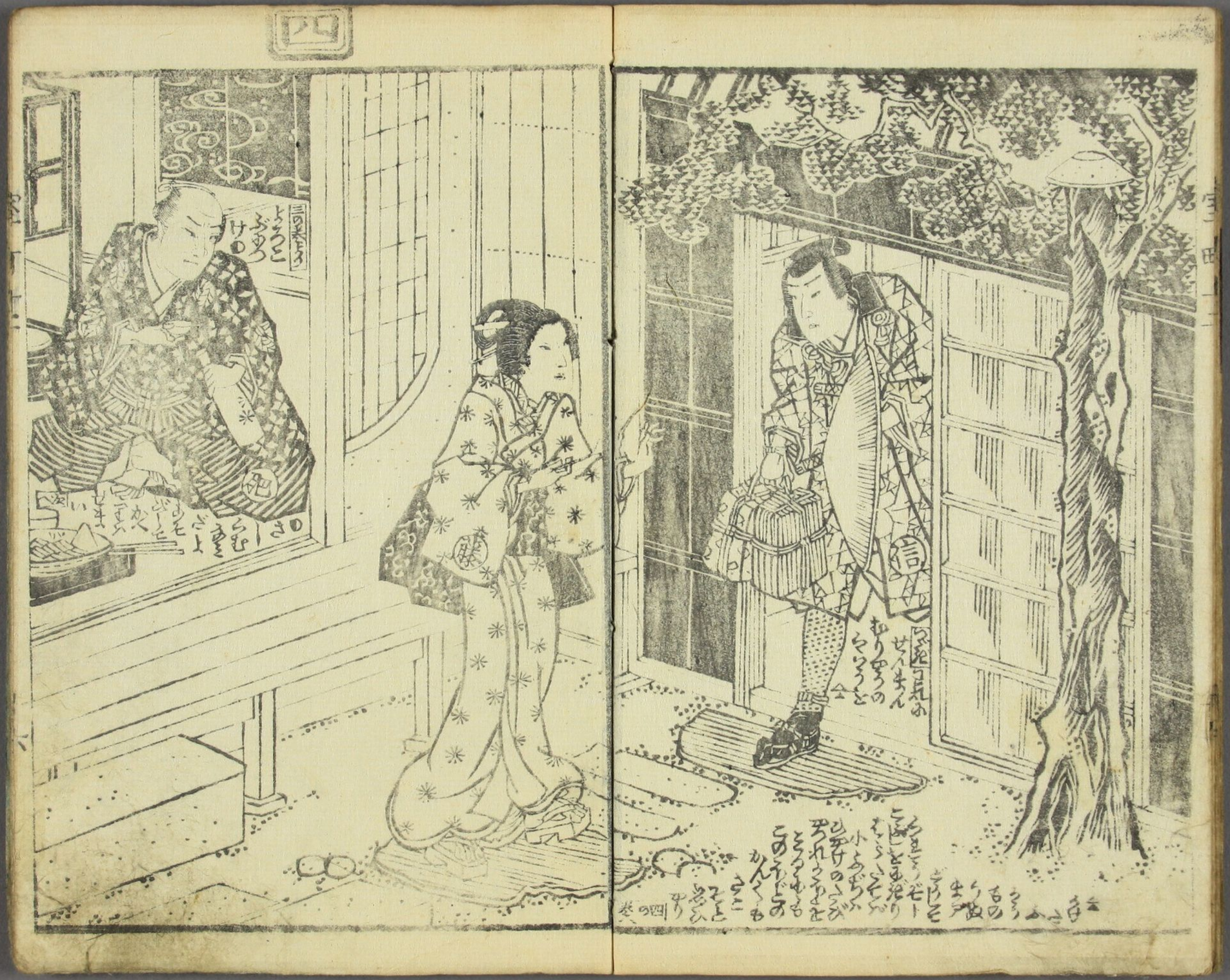
柳亭化 林蝶樓画

物化舊同莊叟夢

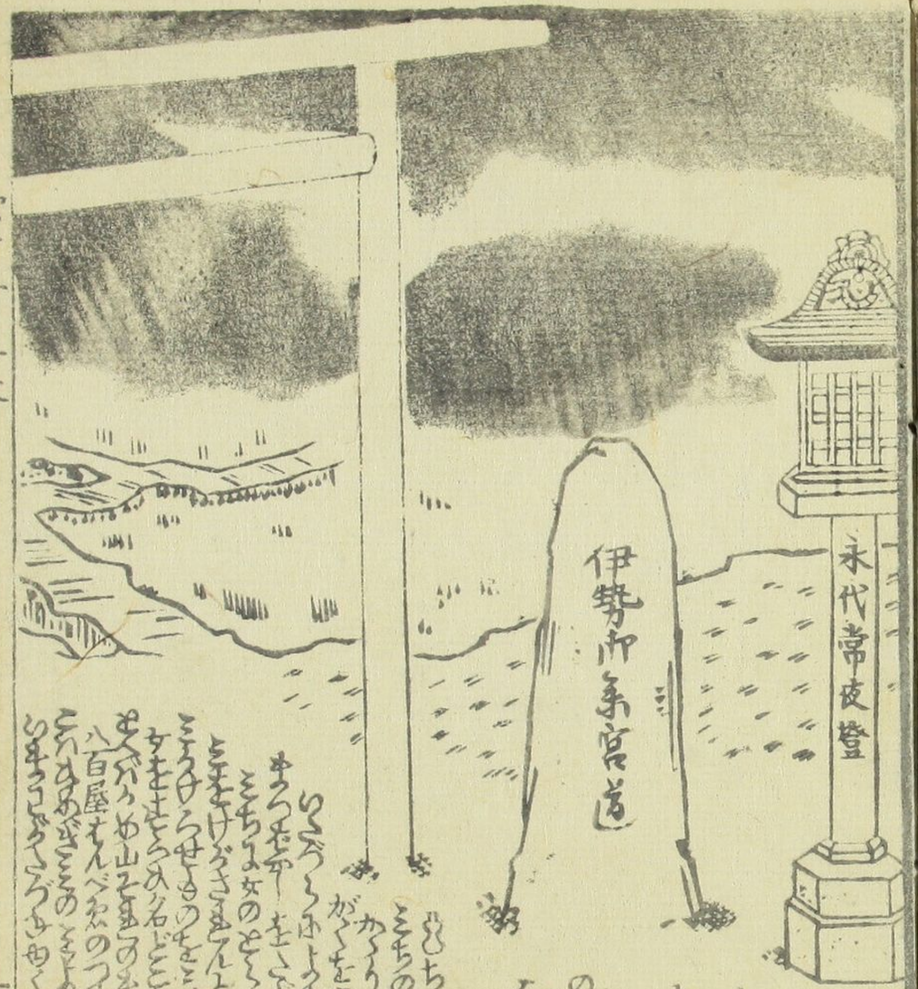








孫


伊勢内宮道
永代常夜燈

種彦作國貞画

慶應四年戊辰陽春開杖標目

新局九尾傳 七編より 十二編より 爲永春水作 梅蝶樓國貞画

室町源氏胡蝶巻 十二編 十三編 十四編 十五編 種彦作 國貞画

筆海四國聞書 十一編 十二編 十三編 種彦作 國貞画

假名情談戀畦會 四編 大尾 如皐作 國貞画

明鴉墨画迺禰福 十三編 十四編 十五編 種彦作 國貞画

童謡妙々車 十二編 十三編 十四編 種彦作 國貞画

花封苔玉章 十編 大尾 種彦作 國貞画

薄伴幻日記 十七編 十八編 十九編 春水作 國貞画

八犬傳犬の双紙 四十九編 五十編 五十一編 柳亭録 國貞画

七峰き葛飾譚 九編 十編 十一編 種彦作 國貞画

南傳馬町壹丁目 蔦屋吉藏板